

別紙参考様式 2

令和 3 年度研究推進計画

学 校 名 東広島市立三永小学校
学校長名 林 万 青 也

1 研究主題，研究内容・方法等について

(1) 研究主題

協働し，自ら学び続ける児童の育成
～レジリエンスと関わり合うことに焦点を当てて～

(2) 主題設定の理由

2030 年の社会と子供たちの未来について，平成 28 年答申では，「社会の変化にいかに対処していくかという受け身の観点に立つのであれば，難しい時代になると考えられるかもしれない。」と述べると共に，「しかし，このような時代だからこそ，子供たちは，変化を前向きに受け止め，私たちの社会や人生，生活を，人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにしたり，現在では思いもつかない新しい未来の姿を構想し実現したりしていくことができる。」と述べている。これを受け，平成 29 年告示の小学校学習指導要領前文では，「一人一人の児童が，自分のよさや可能性を認識するとともに，あらゆる他者を価値のある存在として尊重し，多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え，豊かな人生を切り拓き，持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」と述べられている。社会の変化の加速度が増し，複雑で予測困難な社会において，他者と協働し，変化を前向きに受け止め，持続可能な社会の作り手となる児童を育成することが求められている。

本校では昨年度，国語科における文学的な文章を読み解き，自ら考えを形成する力の育成に取り組んできた。児童が考えた「なぞ（問い）」から学習課題を設定し，論理的に解決していくことや他者の考えに対して吟味・評価を行う活動や振り返りを行うことで，意欲的に考えを形成することができた。また，考えを形成する力が高まったと感じる児童も増えた。これらのことから，一定の成果を得ることができたと考えられる。しかし，児童の成果物を確認していくと，論理的に述べていないものや，吟味・評価が十分でないものもあった。そして，単元ごとに学びが中断し，継続できず，学びの深化が図れていない

ところもあるという課題も見えてきた。これらは、自分の学びを客観的に見る活動や、自分の次の学びに繋がる振り返りの指導が不十分だったということが原因として考えられる。また、授業を振り返ると、対話が教師対児童になり、児童同士で関わり合えず、学びを深めることができていないという課題も見えてきた。本校において、児童同士の対話が深まらないのは、対話を行う際、相手の考えを受け入れることは十分にできるが、質問や反論を行ったり、友達からの反論を受けたりすることに抵抗があるからだと考えた。児童は困難や試練に対して、試行錯誤し、乗り越えたという成功体験が少ないため、自己肯定感や、レジリエンスが低いことが問題の根底にあると考えた。

本年度は、本校の教育目標である「お互いを大切にし、主体的に学び続ける児童の育成」を目指し、「レジリエンス」と「関わり合うこと」に焦点を当て、研究を進めていくことで、本校の課題を解決し、「協働し、自ら学び続ける児童を育成」することができると考え、本主題を設定した。

(3) 研究仮説

授業や学校生活において、正解のない課題（困難）や、試行錯誤し、乗り越える課題（試練）の設定を工夫したり、対話や振り返りの指導や学習集団作りを行ったりすることで、児童同士の関わり合いやレジリエンスを向上させ、児童は協働し、自ら学び続けることができるようになるであろう。

(4) 研究内容

- ①レジリエンスの向上を促す課題設定の工夫
- ②児童が関わり合い、学び続けるための対話や振り返りの指導の工夫

(5) 検証の方法及び指標

①児童の意識調査の分析

7月と12月の意識調査を比較し、肯定的評価を向上させる。

②児童の学力の向上

5月と12月に国語科のチャレンジテストを実施し、正答率を向上させる。（目標正答率：低学年85%以上、高学年80%以上）

2 検証計画

(1) 児童の意識調査の実施と分析（7月、12月）

(2) 国語科におけるチャレンジ問題の実施と分析（5月、12月）

3 校内研修計画

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・研修組織決定 ・校内研修年間計画作成 ・研究の方向性について・帯タイムについて 	<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">P D C A</p>	
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・理論研修 ・チャレンジテストの実施・分析 		
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・「救急救命」研修 ・学級（ホームルーム）経営「アクティブな学びを支える自治的な集団作り」講座（教育センターサテライト講習） 		
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・意識調査，分析 		
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動研修 ・特別支援研修 ・生徒指導研修 ・指導案の修正 ・教材分析，指導案作成，指導案検討 		
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・教材分析，指導案作成，指導案検討 ・授業実践（中） 		
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・教材分析，指導案作成，指導案検討 ・授業実践（低） ・特別支援教育研修 		
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・教材分析，指導案作成，指導案検討 		
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・授業実践（高） ・意識調査，分析 ・チャレンジテストの実施・分析 ・研究の成果と課題の整理 		
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究紀要の作成 		
2・3月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の課題整理 ・次年度の研究の方向性確認 		<p style="font-size: 2em; font-weight: bold;">C A P</p>

4 研究公開の予定について

本年度，公開予定なし